九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[05] radix : 九州大学全学共通教育広報

https://hdl.handle.net/2324/20370

出版情報：radix. 5, 1995-06-26. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン：
権利関係：

1995 6．26

radix

radix（ラーディクス）は，根，根源を意味するラテン語。ヒトの根源にまなざしを向け，豊かなこころの根を広げたい。

九州大学全学共通教育広報 No. 5

劇団幻想舞台　別ユニット「ギンギラ太陽's」
'94クリスマスディナーショーで（10頁参照）

歴史を視る眼
大学院比較社会文化研究科長……志垣　嘉夫…2
ディベート考……言語文化部助教授……井上奈良彦…3
全学共通教育についての
学生アンケート調査の結果について
大学教育研究センター教授……押川　元重…4
コア科目「物質の世界」を開講して
理学部教授……吉村　和久…8
脇山の主基斎田跡……言語文化部教授……杉浦　実…9

卒業生シリーズ
大学4年プラスおまけの1年
「幻想舞台」役者　1987年入学……瀬戸　優子…10
私と仕事……建築家　1971年入学……大貝　知子…11

私の幼少時代
大学院比較社会文化研究科
修士課程2年……末永　英規…12
ラジコン同好会創設の記…法学部2年……横田　尚…13
新任教官自己紹介
磯部　敏幸・井上奈良彦……14
岡　有子・西山　猛……15
六本松図書館案内……16
ちょっと変わった図書館案内
東へ西へ
御招待状……ＬＬ準備室……三宮　優子…18
六本松地区教職員異動（省略）……19
トピックス……煙感知器のつぶやき……19
あとがき……20

歴　史　を　視　る　眼

大学院比較社会文化研究科長　志垣嘉夫

今年は先の戦争が終結して50年になります。先の戦争とは日本では太平洋戦争あるいは十五年戦争，世界史上では第二次大戦を言います。

ニューヨーク・ウォール街の株の暴落に端を発した1929年の大恐慌は，全世界に未曾有の経済的大混乱を引き起こしました。資源の乏しい「持たざる国」日本はアジアの近隣諸国に市場を求め，自国の生存圏拡大に組み入れて大東亜共栄圏の確立に邁進します。1931年9月の柳條溝事件に端を発し（満州事変），映画「ラストエンペラー」でも取り上げられた翌年の満州建国は，朝鮮半島38度線以北を管轄していた関東軍（当時日本最強の軍隊と言われた）の傀儡政権にしかすぎませんでした。日本はこのあと泥沼の日中戦争へ，そして1941年12月真珠湾奇襲による日米開戦へと破局の道を歩み始めて行ったのです。

今年はまた明治維新の後，脱亜入欧を唱えて近代化（資本主義化）の道を歩み始めた日本が，アジアの軍事大国として飛躍し始める契機となった日清・日露戦争が終了してそれぞれ100年・90年に当たります。先進欧米諸国の植民地化を免れたアジアの一国日本が，中国・ロシアに勝利して1910年には日韓併合を断行し，欧米先進国の後塵を拝しながら帝国主義への道を走り続けます。

しかし，市場を求めての他国への軍事的進出は，他の国家や民族の主権を侵害し，蹂躙するという侵略行為であったことは否定できません。

第二次大戦の真っ直中，1943年11月，カイロで開かれた米英華三国会談が「連合軍は，隷属の状態におかれた朝鮮人民の解放のために，日本の無条件降伏を勝ち取るまで戦う」ことを宣言したのも，いかに日本がアジアの国土と人民を抑圧していたかを端的に物語っています。

戦争は悲惨，残虐，不条理を孕んでいます。蘆溝橋事件を契機に日中全面戦争が始まったのが1937年7月。この年の12月日本軍は南京市民を無差別に殺戮した南京大虐殺を起こしています。この事件はなかったと非常識・無恥の発言をする日本人がいますが，これこそ歴史の真実をないがしろにし，中国人民の反日感情を募らせる以外のなにものでもありません。

同じく「持たざる国」であったドイツは，ゲルマン民族至上主義のもとに自国の生存圏を拡大し，ユダヤ人へのホロコースト（一斉殺戮）を断行し，600万人を撲滅しました。

ナチスドイツの膨張を許容した背景には，当時のイギリス・フランスを中心とする対独宥和政策があります。もし(この表現は歴史学には禁句ですが)，両国が，ヒトラーの再軍備宣言（1935年)，ラインラント進駐(1936年)，チェコスロヴァキアのズデーテン地方割譲要求（1938年）に断固とした反対を唱えておれば，歴史は違った方向に向かったかもしれません。ヒトラーに妥協すれば平和を維持できるとした宥和戦略は，結局は砂上の楼閣，1938年9月ミュンヘン会談でズデーテン地方をもらえば今後領土要求はいっさいしないと言明したヒトラーは，舌の根も乾かない内に，翌年3月チェコスロヴァキアを解体し，9月ポーランドに兵を進めて第二次大戦を勃発させたのです。宥和政策は必ず破綻することを戦間期の歴史は証明しています。ドイツは1941年6月からは旧ソ連と史上最大の戦争状態に入ります。この戦闘によって旧ソ連は2600万人の人口を失いました。看過することが許されない戦争の悲劇がここにもあるのです。

1945年枢軸国で残っていたのは日本・ドイツだけでした。イタリアは既に1943年9月降伏しています。もっともこのあと連合国側に組みしたバドリオ政権とファッシスト勢力との間に戦闘状態は続くのですが，イタリアが脱落した頃の国際情勢からみれば，ドイツも日本も勝算のない絶望的な戦闘に組み込まれて行きます。日本ではこの年の5月アッツ島の守備隊が全滅し，「玉砕」という語が登場しました。

50年前の4月から8月にかけて日本の降伏をめぐる戦略と外交の重要な問題の一つに原爆投下の問題があります。アメリカでは依然として，広島・長崎への原爆投下は戦争を早期に終わらせるために必要な軍事行動であったと擁護されていますが，当時の日本の抗戦能力は極度に低下しており，原爆を投下しなくても日本の敗戦は時間の問題であったと私は考えています。日本がポツダム宣言を受け入れて8月15日降伏したのは，原爆投下によってではなく，ソ連の対日宣戦であったのです。アメリカがあえて日本に原爆を投下した窮極的な狙いは，すでに始まっていた米ソの対立のなかで，ソ連に対する牽制であったと見るべきなのです。

戦後50年の今，われわれはあらためて先の戦争の歴史的意味を問う問題意識を大事にしたいと思います。加害者としてアジアの近隣諸国に言語に絶する被害を与えた事実を現代史のなかで冷徹に視る眼とともに戦争への道を阻止することの出来なかった日本人としての反省こそが，日本が21世紀を射程にいれた世界平和の確立に貢献できるものと確信しています。

ディベート考

言語文化部・英語
助教授 井上奈良彦

最近，連日のようにマスコミに登場する某カルト教団のスポークスマンＪ氏がディベートの訓練を受けた者であり，その弁舌の巧みさを賞賛されたり，「うそつき」と呼ばれるのをテレビで見るのは，ディベートに永らくかかわって来た者として複雑な気持ちである。あの教団が宗教の道を誤った行き着く先の姿であるならば，Ｊ氏はディベート能力の誤った発揮の仕方を示していると言っていいだろう。

ディベートの訓練は両刃の剣である。技術だけに関心が行き倫理面が疎かになると，白を黒と言いくるめる悪の技術に堕してしまうことは，ディベートの訓練の発祥とされる古代ギリシャの時代から懸念されてきた。宗教もまた，人を善の道に導くこともできれば，悪の道に導くこともある。こういったことは様々な科学技術についても同じである。人間の生活を向上させてくれるはずの技術が人間の生活や地球環境を破壊することもある。

例外的なディベート能力の悪用が，せっかく学校教育の中にも実践が広がっているディベートへの関心に水をささなければいいのだが。同時に，ディベートの練習をする者，その指導に当たる者にとっては，ディベートの訓練が単なる技術の向上にだけ目を向けてはいけないことを改めて思い知らされる時でもある。

日本におけるディベート教育は過去，何度か関心を呼びながら，いまなお広く定着しているとは言い難い。例えば，明治時代には，福沢諭吉らは三田演説会で「弁論会」と称した討論の練習を行い，くじで賛否を決めて論じ合うディベートもあった。第二次大戦直後には，占領軍の民主化教育政策の影響であろうか，各地で討論会という名のディベート大会が催され，新聞社主催の全国大会も組織されていた。しかし，こういった一種のブームは長続きせず，近年のディベート関係の出版物には新たな「草分け的」実践や指導者が登場する。

そんな中でディベートの訓練を一貫して続けているのが，ＥＳＳ（English Speaking Society）と呼ばれる（他の名称もあるが）英語クラブである。いわゆる「英会話」の練習をしていると考えられがちだが，中でも大学のＥＳＳのディベート・チームはディベートの試合に参加するための体育会系運動部の文科系版といった趣が強い。「トーナメント・ディベート」と呼ばれるこの形態のディベートは，自動車の運転に例えるならＦ１レース，百人一首なら競技かるた，といった世界である。現在は年二回全国統一論題が発表され，ディベートの「試合」に参加するチームは，部内や他校との練習試合をし，地区予選を勝ち抜いて全国大会に出場する（九大ＥＳＳも全国大会出場レベルの実力がある）。論題は社会性の強い硬派の問題を扱うことが多く，学年は図書館に通って資料を探し，連日遅くまで議論を組み立て作戦を練る。ちなみに今期の論題は「日本の司法制度に陪審制を導入すべし」というものである。私も，学生時代には専門の文学部の図書館より法学部や経済学部の図書館に足しげく通い，英文専攻の同級生や先輩には「あら，井上君，英文だったの」とか，「いつまでもディベートばっかりやってても，将来どうするの？」と言われたものである（結局，今もディベートにかかわっている）。

この「試合」というのが曲者である。参加チームは同じ論題の肯定側・否定側どちらにも立てるようにしなければならない。大会では公平を期するために，立場を試合毎に交互に変えたりくじで決めたりする。これには，本来，物事の賛否両論を十分に吟味し，客観的なものの見方を養う，などの教育的価値がある。論題は賛否両論が同程度にあって，一方が正しいとは決められないものが選ばれているが，まかり間違えば詭弁の世界に陥る。現実社会の問題については，試合のための議論だけに終わらずディベートでの勉強を通して自分なりの考えを形成していくことが大切である。また，試合であるから勝敗があり，勝つためには何でもするといった態度が出てこないとも限らない。残念なことだが，証拠資料を歪曲して引用するチームも出てくる。もちろん，発覚すれば出場停止など厳罰に処せられる。

ディベートの試合というのは「ゲーム」の仮想世界の中で議論をするので，現実世界のことにあまり囚われず，自由に議論の訓練を行えるし，勝ちたいという心理は向上心となる。反面，そこに「はまって」しまい倫理観などを麻痺させる恐しさがある。このバランスをどうとるか，教育者に課せられた使命である。かのＪ氏も，連日のマスコミとの対応をゲームと考えているのなら，現実とゲームを混同する過ちを犯してしまっている。

ディベートの悪用は，ディベートそのものの必要性を否定するのではなく，その適切な指導の必要性を示唆するものである。トーナメント・ディベートが発達してきたアメリカの学校にはコーチがいて大学院でディベート・コーチ法の授業があったりもする。スピーチ・コミュニケーション関係の学会ではそういった専門家が集まってディベートの議論や作戦の分析，教育理念，などが討議される。日本では，ディベート教育者・研究者の養成は遅れている。

全学共通教育についての学生アンケート調査の結果について

大学教育研究センター　教授　押川元重（おしかわもとかず）

かつて，大学の授業では，その内容が優れていることが第一でした。教師は優れた授業内容をめざして講義ノートづくりに大きなエネルギーを割きました。参考書等も十分には揃っていなかった時代においては，ノートは最も重要な勉学の対象でしたので，学生は黒板から書き写したノートを大切にしました。

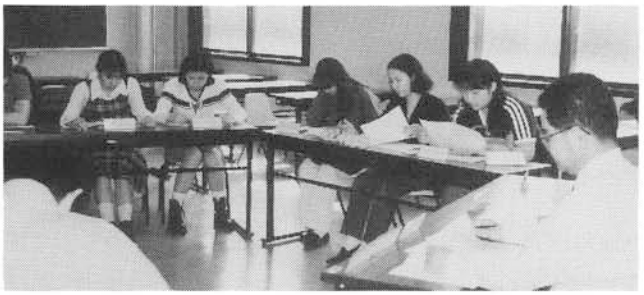
しかし，大学教育は大きく変化してきました。優れた授業内容であるだけでなく，学生の理解力を考慮した授業であることや，教育機器等を利用した理解しやすい授業方法を採用することが求められるようになってきました。さらに，教師は，学生の勉学意欲を向上させるための手だても講じなければなりません。かつては，学生は教師についていくもの，と考えられていましたが，今では，教師は勉学についてこない学生をどうするかを考えなければなりません。

とは言っても，学生を手取り足取りに教えたのでは，大学の教育とはいえません。大学で学生は，知識の習得だけでなく，自ら課題を探究し，問題を解決できる能力を培わなければなりません。そのためには，能動的に頭と知恵を使った学習が大切です。受け身な学習態度では，卒業後に社会のさまざまな分野で指導的な役割を果たすうえで必要な，正しい判断の能力も育たないでしょう。

それとともに，大学は効果的に学習できる場所でもなければなりません。広範な分野についての優れた学習書等も揃っており，それらを使って独習することも比較的容易になっている状況のもとにあっては，大学という教育組織は，優れた授業内容を提供するとともに，効果的な学習を提供する場でなければなりません。

効果的な教育が行われるためには，授業内容や授業方法の改善の努力が必要ですし，さらにそのために，効果的な授業が実施できているかどうかを調査点検することが必要です。本学の全学共通教育については，そのための組織として，全学共通教育自己点検・評価委員会及びそのもとに，3つの評価改善委員会（教養教育等，言語文化教育，基礎科学教育）が設けられています。これらの組織の最初の活動として，平成6年度から始まったばかりの全学共通教育についての学生アンケート調査が，昨年11月に実施されました。

学生アンケート調査は1年生全員を対象にして，文系学生は英語，理系学生は数学の授業時間中に実施されました。授業時間中に実施した調査は，選択回答式のものでしたが，そのほかに自由提出の記述式の回答用紙を配布しました。その結果，選択式回答については，2,096名の回答がありました。これは1年生在籍数2,630名の71.4%にあたります。また，記述式回答については299名の提出がありました。



選択回答による質問の多くは，NOからYESにいたる5つの項目の番号1，2，3，4，5の一つを○で囲むものになっています。以下にアンケート調査の結果の概略を説明しますが，そこでは質問項目ごとにこの5段階尺度による回答の平均値を示すことがあります。その場合は，回答の平均値が3より大きいほどYESに近く，3より小さいほどNOに近い回答ということになります。

1　コア教養科目

コア教養科目は平成6年度から実施された全学共通教育科目のうち，教養教育科目の「核」となるものであり，各学部ごとに選択必修の枠が定められています。各コア教養科目ごとに共通シラバスが定められており，授業担当教官は共通シラバスを考慮しながら，その専門性と個性を生かした授業を実施することになっています。このようなコア教養科目は，それまでの一般教育への反省のうえにたって設けられたものです。それまでの一般教育は，人文科学，社会科学，自然科学の区分に属する科目の中からそれぞれ一定の単位数を選択して履修するものでしたが，学生が単位を取りやすい科目をつまみ食い的に履修するという弊害が指摘されていました。こうした反省のうえにたって，コア教養科目は系統性のある教養教育をめざして設けられたものです。

コア教養科目についての質問およびその回答の平均値は表1の通りです。調査前から予想されていましたが，コア

表1　コア教養科目について

質　問　項　目	回答の平均値
コア教養科目の講義が共通シラバスに沿う形で進められているか	3.00
コア教養科目で各分野の学問が創られた問題意識，学問の特徴的な方法や見方を学べるか	2.78
コア教養科目で各学問の社会との関わりの中での位置づけが学べるか	2.60
コア教養科目で自分の教養や見識を養うことができるか	3.22

教養科目についての学生の回答には厳しいものがありました。例えば，記述回答の中に，「教師が自分の専門の領域に引き込むため，授業内容が専門的過ぎる」という指摘もありました。コア教養科目は新しいタイプの教養科目として始まったばかりですので，授業担当教官にも戸惑いがみられます。シラバスを含めて，授業内容並びに授業方法の改善をいっそう進めていくことが必要です。また，「コア教養科目も周辺教養科目と同じように選択履修にして欲しい」という意見もありましたが，コア教養科目が準必修科目として設けられたのは，学生が学問のコアを学ぶべきであるという考えによるものです。特に，大学は好きな勉強だけをすればよいところであるという誤解が学生の一部にあるようですが，九州大学のカリキュラムは，どのような学生を卒業生として社会に送り出すかという教育目標にもとづいてつくられています。その中で，広い視野，創造的な能力，豊かな人間性の積極的な育成をめざした教養教育が重視されています。

コア教養科目の授業への出席率を自己評価する質問についての回答の平均値は4.27であり，出席率が80%の4と100%の5の間となっています。

2　周辺教養科目

周辺教養科目は，学問追究の深さを知り，学問への関心・興味を育てることによって，コア教養科目を「核」とする教養教育を補完するものと位置づけられており，学生は定められた単位数の科目を選択履修することになっています。周辺教養科目を履修しての印象を回答の平均値で見ると表2の通りです。回答の頻度分布においても，ほとんどの項目でピークが4であり，コア教養科目と違って好評でした。記述回答においても，「授業内容に興味が持てて，楽しい」，「自分が興味が持てる科目を選択できるのでよい」といった積極的な意見が多くみられました。また，「周辺教養科目の選択の幅が狭いので開講科目数を増やして欲しい」という意見もありましたが，これは時間割において，1年生はコア教養科目の履修を優先しているためであって，2年生ではもっと選択の幅が広くなっています。なお，特定の科目に履修希望者が殺到した場合に，正常な授業を遂行するために履修者数を制限せざるを得ないことがありますが，それに対する不満も見られました。

表2　周辺教養科目について

質　問　項　目	回答の平均値
周辺教養科目の講義内容がよく理解できた	3.29
周辺教養科目の講義内容が良かった	3.39
周辺教養科目では，高校での授業とは違った学問の深さを感じた	3.56
周辺教養科目の担当教官の学問への熱意を感じた	3.16

3　少人数教育科目

全学共通教育科目の中の少人数教育科目としては，さまざまな学部の学生が混じって1年間通して履修する学際主題少人数科目と，各学期ごとに履修する少人数科目があります。少人数教育科目を履修した学生数は357名で，これは回答学生数の17.0%でした。履修を希望した学生数（履修した学生数と履修を希望したが履修できなかった学生数の計）は712名で，これは回答学生数の34.0%でした。したがって，履修を希望した学生のうち50.1%が履修でき，残りの49.9%の学生が履修できなかったことになります。少人数科目の履修を希望した理由としては，「セミナー形式の授業を経験したかった」というのが多く，履修を希望しなかった理由としては，「魅力を感じるテーマを持った科目がなかった」が多いという結果がでました。少人数教育科目については履修した学生の評価も高いので，もっと多様な内容の少人数教育科目を多数開講することが必要でしょう。

4　言語文化科目

a）外国語の必修単位数についての質問に対する回答割合は，表3の通りです。なかでも，第二外国語について，文系の学生と理系の学生との間に違いが見られるところが注目されます。

b）第3外国語を履修したいと思いますか，という質問についての，回答の平均値は2.39でした。

c）英語力を身につけるために，大学の授業およびその予習復習以外にしていることについて，回答割合の大きいものを順に並べると次の通りでした。

英語の検定試験（例えば英検など）を受けた	21.9%
英語の検定試験（例えば英検など）を受ける準備をしている	20.9%
ラジオ・テレビ講座を利用している	13.5%
カセット・ビデオを利用している	13.5%

表3　外国語の必修単位数

%

	うんと減らす	やや減らす	現状のまま	やや増やす	うんと増やす
外国語全体	14	24	53	7	2
第一外国語	13	24	51	9	3
第二外国語（文系）	14	17	56	11	3
第二外国語（理系）	28	20	33	11	7

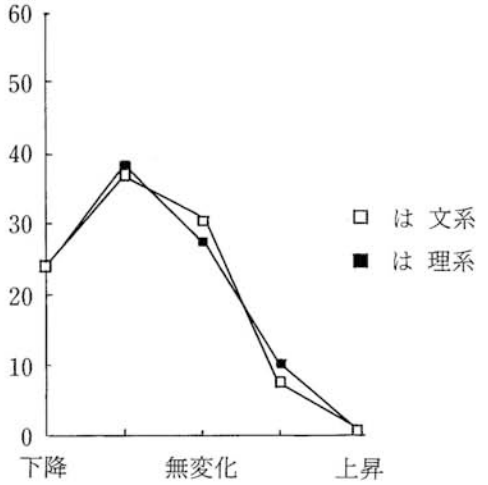
d）英語の授業をさらに改善するための方策について，回答の平均値が大きいものを順に並べると次の通りでした。

文法・訳読よりもコミュニケーション中心の授業を増やす	4.05
ネイティブスピーカーの授業を増やす	3.93
ＬＬ授業を増やす	3.56
ビデオ教材の利用を増やす	3.56
易しい内容の文章の速読を増やす	3.55

ここで注目されることは,「テキストを含めて授業内容のレベルを上げる」ことについて，文系ではＹＥＳがＮＯよりも多く，理系はＮＯがＹＥＳよりも多いという異なる結果がでました。

e）入学前に比べて自分の英語力は上がったと思うかという質問についての，回答の結果はグラフ１の通りです。入学後約半年しか経っていないのに，入学前に比べて英語力が下がったと考えている学生が多いという結果がでていますが，その理由としては，入学後の英語学習への緊張が低下していることと，大学での授業のレベルが高校までのそれよりも上がっているということも考えられます。

グラフ１



f）英語以外の外国語の授業をさらに改善する方策の質問について，回答の平均値が大きいものを順に並べると次の通りです。

その国の文化についての授業を増やす	3.81
授業をもっとゆっくり進める	3.73
文法・訳読よりもコミュニケーション中心の授業を増やす	3.72
ネイティブスピーカーの授業を増やす	3.62
ビデオ教材の利用を増やす	3.52

5　健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ科学科目については，別に学生アンケート調査を行っていますので，今回は記述回答調査のみを行いました。１年前期の健康・スポーツ科学実習Ｉにおいて，健康づくりに関する授業や体力測定などの新しい試みを取り入れていますが，これに対して，その意義がわからない，面白くない，スポーツを自由にやらせて欲しい，といった意見が沢山ありました。ただし，この試みは斬新で面白い，役にたった，という意見もありました。このように，授業内容を必修科目にふさわしい充実したものに改善しようとする担当教官の努力と，楽しくスポーツをする時間にしたいという学生の気持がかみ合わないようです。

6　基礎科学科目

a）「基礎科学科目について次の感想に該当する科目をすべて選択して下さい」という質問への回答を求めました。科目毎に回答者中の推定履修者数を求め，それに対する該当すると答えた人数の割合を出したのが，表４です。これを見ると，授業内容を理解できるという項目と難しいという項目の両方ともに高い割合が見られる科目があります。

b）ＴＡに関する質問についての回答の平均値は次の通りで，ＴＡ制度が学生に評価されていることが表われています。

ＴＡにはわからないことを質問しやすい	3.53
ＴＡは熱心に教えてくれる	3.52
ＴＡはわかりやすく説明してくれる	3.48
担当教官とＴＡは連携して教えてくれる	3.22
ＴＡのほうからいろいろと声をかけてもらえる	2.92

7　箱崎日・病院地区日

箱崎(病院)地区日は，新しいカリキュラムにおいて４年（６年）一貫教育をより本格的に実施する目的で実施され

表4　基礎科学科目についての感想（科目ごとの該当する割合）

%

	数　学	物理学	化　学	生物学	地　学	図　学	情　報
授業内容をよく理解できる	20	15	15	42	32	27	22
授業内容が専門的すぎて難しい	34	44	33	21	8	12	5
授業中にもっと多くのことを学びたい	12	19	21	52	20	14	27
授業内容が高校で学んだことの繰り返し	9	18	18	21	8	2	0
授業の進め方が速すぎる	37	39	24	13	6	10	4
授業（実験実習）が楽しい	6	10	14	34	14	15	23
授業（実験実習）の内容に興味が感じられない	21	30	24	17	25	15	3
授業に担当教官の熱意が感じられる	25	17	14	19	27	17	6
授業に担当教官の熱意が感じられない	25	19	17	14	22	10	4
演習の時間をもっと多くしてほしい	16	17	11	18	6	12	20
宿題やレポートを多くして，それを評価してほしい	14	15	12	14	10	10	6
宿題，レポートの提出をもっと少なくしてほしい	13	16	14	10	13	16	7

ています。箱崎（病院）地区日についての回答結果は表5の通りで，文系と理系とでは違った結果が出ています。なお，文系の中でも教育学部については，理系の学部以上に平均値が高くなっているなど，学部の間での違いも見られます。初年次学生を教えた経験がない教官がこれまでと同じように授業を実施したり，新しい制度が始まったばかりで担当教官の戸惑いなどもあるようですが，改善が急がれます。また，文系の食堂の整備や，午前と午後でキャンパスを移動する農学部の方法の改善を求める意見もありました。

表5　箱崎（病院）地区日について

	文　系	理　系
箱崎（病院）地区日の講義内容は理解できるか	2.71	3.00
箱崎（病院）地区日の講義内容に興味をおぼえるか	3.04	3.50
箱崎（病院）地区日の講義などに対する教官の熱意を感じるか	2.88	3.35
箱崎（病院）地区日に教官・大学院生・上級生が勉強する姿を見て自分の勉強意欲がわいてくるか	2.06	2.44
箱崎（病院）地区日の学習に意義を感じるか	2.82	3.25

8　その他

記述式回答の中には，さまざまな意見がありましたが，その一部を紹介するとともに，いくらかの説明を加えたいと思います。

a）カリキュラムが複雑で履修の仕方がわからない，特に，広域選択履修方式がよくわからない，という声も少なくありませんでした。「全学共通教育科目履修の手引き」の記載内容を含めて履修方法の説明を改善することにしたいと考えています。なお，履修についてわからないことがあれば，教務掛の窓口で聞いてください。

b）時間割が詰まりすぎていて忙しすぎる，という声も特に理系の学生からありました。高年次になって箱崎地区や病院地区から，六本松地区にくることをできるだけ少なくしたいという理由で，1年生において必修科目等の履修を多くしたため，2年生で履修する科目が少なくなっているというアンバランスが生まれていますので，時間割配置の検討も必要のようです。

c）受講する時間の間に受講しない時間ができないように時間割を考えて欲しい，という声もありました。そのような気持ちもわからないわけではありませんが，教室数不足など時間割作成に制約があることを理解していただきたいと思います。また，空いた時間などには，ぜひ図書館を利用するなどして，勉強してほしいと思います。

以上，学生アンケート調査の結果の概略です。さらに詳しい調査結果については報告書を作成することにしています。また，調査結果をもとにカリキュラム，授業内容，授業方法の改善に取り組んでいきたいと思います。そのために，今後とも高年次の学生を対象としたものなどさまざまな形でのアンケート調査を実施したいと考えていますので，協力をお願いします。

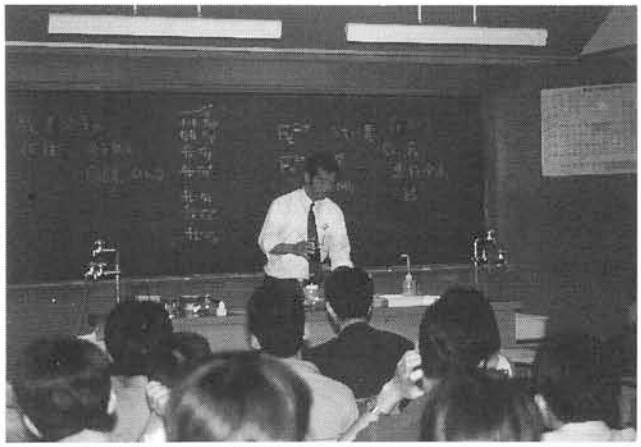
コア科目「物質の世界」を開講して

理学部・化学
教 授 吉村和久

教養課程の廃止にともなう大幅なカリキュラムの改訂により平成6年度からスタートしたコア教養科目は，2年目を迎えました。理系教官の関与するものとして，「地球と生命」，「数理と情報」および「物質の世界」の3科目が開講されています。ここでは，おもに物理系と化学系の教官の協力のもとに行われている「物質の世界」について，担当者会議を代表して，平成6年度の実施概要を報告します。

「全学共通教育科目履修の手引き」にあるように，「物質の世界」は，ミクロな原子からマクロな宇宙にまで物質の世界を展開し，それぞれの階層に現れる諸現象の裏に秘められた基礎的な法則・原理を，物理，化学の目を通して紹介します。そして，物質を新たな角度から見直すことで，受講者にとって物質全体の理解をさらに深める端緒となることを期待するものです。とくに文系の学生に受け入れられるかどうかがこの科目の成否の鍵となると考えて，数回にわたる担当者会議を開催して，周到な準備を行いました。そこでは，平成5年度に，物理学科2名，化学科2名の教官が一緒に行なった，総合科目としての試行の経験が非常に役立ちました。

シラバスには，物質の階層構造を縦糸とした標準的なものと，扱う対象をさらにしぼった個別シラバスがありますが，平成6年度の5コマ中4コマの講義は「ミクロからマクロへ：物質の世界の秘密を探る」を採用しました。また，文系向けの講義の1つは，光を統一テーマにすえた「光物語 ― 光と物質」でした。とくに文系学生に対しては，数式はできるだけ使わないようにし，応用例を身近なものに求め，やさしく解説することに努めました。また，実物の回覧，演示実験，視聴覚教材の使用などさまざまな工夫がなされました。



受講生がこの講義をどのように受け止めたかを知るために行なったアンケートの結果は次の通りです。

1）講義の難易度（%）

	極めて難	難	普 通	易
A	31	56	11	2
B	4	71	21	4
C	17	69	13	1
D	25	66	7	2

2）関心度（%）

	興味深い	面白くない	普 通
A	61	15	24
B	70	2	28
C	56	9	35
D	52	10	38

ただし，A）理，工 163名，B）農，歯，薬，医 69名，C）工 141名，D）法，経 141名

アンケート結果からは，文理に関係なく，講義内容は難しいが，過半数の者が興味深いと答えており，面白くないと解答した者は10%に過ぎません。「難しいけれど興味深い」が受講者の大半の印象であったようです。このほかに感想，意見も書いて頂きましたが，受講生達に理解させようと努力していたことが高く評価されていました。また，講義中に取り入れられた実験や実物の回覧が好評でした。身の周りで起こっている現象が理解でき，物理や化学が身近なものになったという感想もありました。

評価は，各回に，講義に関連したテーマについて講義時間内に書くミニレポートで行いました。受講態度はおおむね良好でしたが，レポート作成時間が十分にとれなかったことと，その時だけ教室にあらわれる不心得者が若干名いたことから，評価法については今後さらに検討する必要がありそうです。

受講者の「物質の世界」への関心度は高く，この講義の目的はほぼ達成できたように思われます。もっと日常的な話題を取り入れて欲しいとか，専門用語の説明がもっと必要だという指摘を参考にして，よりよい講義を目指しております。

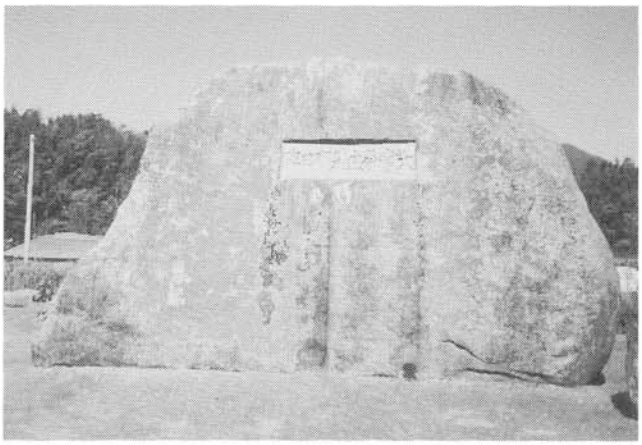
脇山の主基斎田跡

言語文化部・ドイツ語
教授 杉浦 実

脇山小学校（福岡市早良区脇山）のまえを通りすぎて，椎原の方へすこし行くと，右手に脇山公民館の真新しいモダーンな建物が見えます。そこから西へ幅3メートルぐらいの石だたみの道がのびています。曲がり角に「主基斎田跡」と矢印のついた案内板がたっています。

ごく最近までは，公民館はなく，道も狭くて舗装されていず，田んぼのなかにつきでた恰好でのびていました。いまは付近一帯が脇山中央公園として整備され，石舗装の道の両側にはツツジが植わり，見違えるようになっています。もと田んぼだった周辺も盛土され，整地されて，すでに芝が張られています。しかしまだ完成していない様子で，公園らしい施設もなく，工事の人たちがあちこちで作業をしています。

道は500メートルほどで行きどまり，つきあたりに自然石でできた大きな碑が建っています。太い文字で「大嘗祭主基齊田碑（だいじょうさいすきさいでんひ）」と刻まれています。かたわらに福岡市観光課の説明文があり，読んでみますと，「昭和3年11月，京都御所で行われた今上天皇の即位式で，主基殿に供えられた新米が脇山の石津新一郎が所有したこの斎田より献上された。全国から選ばれ，古式により田植えから収穫仕上げまで，村（脇山村）を挙げての大行事であった。この斎田から白米3石（450キログラム）が献上された」とあります。



大嘗祭主基齊田碑

昭和3年3月15日，主基斎田決定の通知が宮内省から福岡県をつうじて早良郡脇山村に伝えられ，その日，村人全員が役場に集められ，このことが伝達されました。

脇山村が斎田に指定された理由は，ひとつには水量豊かな清浄な川があること，ふたつめは螟虫の発生が県内でいちばん少なかったからのようです。

このときから村の様相が一変しました。明くる日からさっそく斎田に通じる道の拡幅工事，水路の整備と清掃，こういった作業に村人がかりだされました。村に郵便局が開設され，役場と郵便局に電話がひかれました。気象観測所と警備所が設置されました。乗合自動車が1日2回村に乗り入れることになりました。

斎田斎場が設けられ，神殿をはじめ神事に必要な建物が建てられました。御田植祭，豊饒祈願祭，大祓式，抜穂式などの神事がそこで行われました。

斎田にはいっぴきたりとも螟蛾の侵入がゆるされず，そのために螟虫誘致田が指定されました。誘致田は斎田よりも一足はやく田植えをすませ，螟蛾を呼び寄せる役目を負わされました。

村人は男女年齢既婚未婚の別に応じて，奉賛会，主婦会，青年会，処女会，少年団，少女会に所属し，それぞれ仕事を分担させられました。夜明前から日没まで，一日の休みもなく，奉仕作業が続けられました。

村には全国からひっきりなしに視察団が訪れます。その接待だけでもそうとうな労力と費用がかかりました。視察団だけでなく，新聞記者，カメラマン，いっぱんの見物客までが押しかけ，村は一日中ごったがえしの状態です。

斎田事業期間中は「穢れ」が嫌われ，病人がでると，山の中腹に建設された避病院に隔離されました。死者がでても葬式はご法度です。お産も「穢れ」とみなされ，家畜のお産も認められません。ただ鶏だけは例外だったようです。もし病人，死者，産婦がでたばあい，その家族は不浄とされ，斎田行事からはずされました。

村人たちの昼夜を分かたない奉仕の結果，とにかく稲のとりいれも無事すみ，10月16日，献上米の輸送が行われました。烏帽子に白衣の8名からなる奉舁者が「大嘗祭主基齊田御供納米」の札を掲げ，県知事，県の役人，村長，村役人，県会議員，そして最後尾に村人と郡内各種団体が，長蛇の列をつくって，2時間をかけて国鉄の駅まで練り歩き，新造の列車で京都に向かいました。村から駅までの沿道では群衆が日の丸を振って見送ったそうです。

大嘗祭主基齊田碑は黙して語りませんが，この大きな石碑のしたから，当時の村人の怨念の声が聞こえてくるような気がします。

＊斎田事業の詳細については，児玉サチ子「初穂の村」（『西域』第19号，1992年）を参考にしました。

大学4年プラスおまけの1年

「幻想舞台」役者　1987年入学　瀬戸優子

第4回公演「鉄皇」より

1987年4月　九州大学入学。念願の一人暮らしを始める。

1988年8月　修猷館高校の演劇部OBに誘われ，高校以来の舞台を踏む。

1988年12月　劇団の第二弾公演で1時間も一人語りのある主役を演ずることになってしまう。記念すべき20歳のバースデー，役作りにゆきづまってしまい，このまま車で海につっこんで入院したいと本気で願う。(死にたいと思うほどの勇気はない。)けれど不思議なもので，その日たまたま見学にきていた人物が，3ヶ月後，新劇団結成に誘ってくれ，今の私がいる。

1989年1月　天皇がなくなった日と平成の最初の日，本番を迎える。差別問題を扱った芝居で，「死んでしまえば天皇様もわも（私も）同じだ。」というセリフに力が入る。

1989年4月　先の見学者，当時芸工大演劇部の4年生であった高橋徹郎氏（最近KBC「どーも」にもでてる）に誘われ，劇団「幻想舞台」結成。このころから，ほとんど芸工大生と化す。

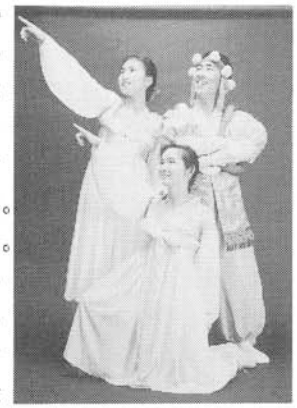
1990年5月　幻想舞台第2回公演。稽古に明け暮れ，ふと気が付くと，友人達が続々就職の内定をもらっている(バブル全盛期)。あせってはみたが，やりたい仕事など何も思いつかない。しょうがないので，それならせめて好きな場所で仕事をしようと思い，図書館司書になろうと決意する。ところが，確実に図書館で働くには，国家公務員II種の図書館学を受験するしかないという。公務員なんて考えてもみなかったが，とりあえず今年は間に合わないので，就職浪人を早々に決め込み，夏休みに九州国際大学の司書講習を受講することにする。就職活動をしなかった親への言い訳にもなる。

1990年10月　幻想舞台，なんとイムズ芝居に出演。これで一躍福岡の人気劇団へのしあがる（とよく書かれる）。

1991年3月　九州大学卒業。晴れてプー太郎となる。仕送りなし，バイト，稽古，公務員試験の勉強の3本立てに，この上なく貧乏になる。しかし，貧乏には貧乏の楽しみ方があるもので，どこまで食費を押さえられるかと，昼はおにぎり，夜はビールとニラとじの毎日を送ったら，1ヶ月の飲食費（嗜好費込）が1万円を下回った。けれど，さすがにやせた。(周りはよくおごってくれた，ありがとう。)

1991年7月　公務員試験をぎりぎりの成績でなんとかクリア。芝居のためなんとしてでも福岡で就職したい。と思っていると，九大の図書館が10年位ぶりに女性を募集，これまたぎりぎりでなんとか枠にひっかかり，採用が決まる。(ただし，一人だけ再面接，仕事と芝居が両立できなくなったら仕事をとる，と約束させられた。ふん，入ってしまえばこっちのもんだ。)東大の採用面接は，どっちも受かったら九大にいくと言ったら落ちた。

1992年4月　九大教養部分館に配属される。5年ぶりにこの若さあふれる六本松キャンパスへ。



それからまる3年。なんとか芝居もやって，仕事もやっている。26歳，独身。望んだものはたいてい手に入れてきた。ひきが強いと言われたりもする。けれど手に入れただけ，手放した。昔の恋人が，今年3人結婚する。さすがにショックだ。くやしいので，楽しいことしかやらないことにした。芝居，映画，ダンス，本，英会話，スポーツ，仕事，酒 etc.をやる，みる，のむ，の毎日。将来もっと遊べるよう，今のうちもっともっと遊んでおこう。

最近の幻想舞台…別ユニット「ギンギラ太陽 's」で天神のビル達を登場させたコントをあちこちでやって評判になっている。(表紙写真参照，ちなみにあたしはマダム大丸。)本公演は11月に予定。興味ある方は，図書館まで…。

私　と　仕　事

建築家　1971年入学　大貝知子（おおがいともこ）

大学を卒業して今年で20年です。進学するなら，職業として確立した技術を身につけたいと思いました。それで，興味がある住宅を扱う建築を選び，今も建築の仕事をしています。しかし，国語や世界史が得意という文系の人間が，一念発起理科系の受験勉強に取り組むのは大変で，教養部では進学するまで物理に悩まされ，(成人式の日に再試験をした先生は今でも恨んでいますが）社会に出てからも高校の数学の試験の夢にうなされたものです。

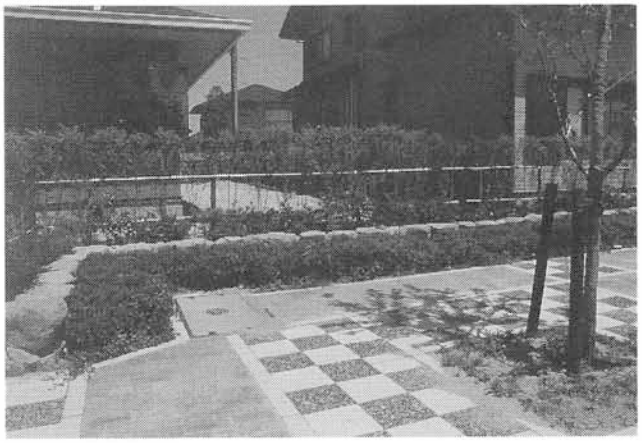
建築という分野は幅広く，デザイン・都市計画・設備・建築史など，およそこれまで人間が活動し空間を使うことならどんな事でも勉強の対象になりえます。例えば住宅の設計は，空間論やデザイン論だけでなく行動心理学や社会学を知ることで，家族の特性や家事を知ることで良い家ができます。言って見れば雑学が要求されるのです。だから，設計や都市計画の分野で文系人間であることは決してマイナスにはならないようです。

今，市内で設計事務所を開いています。戸建て住宅や集合住宅・住宅地の街並創りなど，住宅系が中心です（「編集委注」住宅団地の街並創り及び20頁の西福岡マリナタウンイーストコーストなどは大貝氏の設計による)。この分野の女性は少ないので，県や市の委員やシンポジウムのパネラーなどの声が掛かります。そこで異なる分野の人達と知り合えるのは，貴重な経験です。学者でもないのにこんな場が与えられるのは，女性だからこそです。だからこそ真面目に取り組んでいるつもりです。男性の中には逆差別だと言う度量の狭い人もいます。私にとって，仕事に結びつかないことに貴重な時間を裂くわけで，結構損なものですが，男性にはステイタスと映るのでしょう。

最近，男性の仕事の進め方や人脈の作り方には，つくづくおよばないと痛感しています。男性は，子供の時から職業を持つことを前提に育てられます。個人差はありますが，情報ネットワークの構築には素晴らしいものがあります。学校時代の仲間や知り合った人達をうまく組み合わせて活用するすべを，意識しないにせよ，きちんと知っているようです。これは一般的に女性が苦手な部分ではないでしょうか。女性はこうした人脈を築きにくいものです。友達の多くが家庭に入り，継続的な仕事を持つ人が少数です。女性のネットワークがあまり広がらないのも当然でしょう。仕事上もそうです。気が合う男性でも気軽に飲みには誘えないものです。ゴルフで交遊を拡げるのも，家庭があれば時間は自由になりません。「貴重な自由時間をつき合いなどに浪費するなんて」と思うと，ネットワークはなかなか広がりません。つき合いを奨励するつもりはありません。だから，働く女性がもっと活躍するために，より多くの才能ある女性が仕事を続け，質のすそ野を拡げネットワークも拡げることが一番大切ではないかと思います。

女性は男性と違い，選択肢が沢山あります。家族の扶養という重圧はあまりありません。だから安易に職業を選択し，いとも簡単に捨て去るのでしょう。主婦の座に納まるのも良いでしょう。自分の適性探しが大切な時もあります。社会の重圧に押しつぶされることもあるでしょう。しかし，そこに甘えがないでしょうか。仕事には苦しいこと嫌なことも沢山あります。見た目楽しそうな事ほど，苦しい。苦しそうな事ほど楽しいと言われます。マラソンは苦しくともゴールの喜びは素晴らしいものです。我慢など，今の若い人達には流行らないでしょう。しかし，打ち込める仕事を探し，めぐり会えたら簡単に諦めない。それが自己実現への近道です。その入口の一つが大学です。

学生時代，何でも良いから打込めるものを持つ人はその近道に足を踏み入れていると，私は思うのです。



ヒルズ古屋敷の中の小広場

私の幼少時代

大学院比較社会文化研究科
修士課程2年 末永英規

私は小学生の頃，虫やザリガニ，トカゲなどを追いかけていた昆虫・ザリガニ・トカゲ少年であった。その頃はただ，妙に思った虫，小動物を捕まえては友達と一緒に図鑑で調べ，また逆に図鑑でかっこいいと感じた虫をみては探し回っていた。そのような，毎日出逢った幼少の頃の話を，当時の情景を思い出して書いてみようと思う。

私は，奈良盆地の南部，大和三山を持つ橿原市の，とある田圃と用水路に囲まれた小さな住宅地に住んでいた。住宅周辺の用水路のわきには，ヤナギの木が何本も生え，それらの木に混じってクヌギやエノキが生えていた。また，奈良という土地であったため，点々と田圃の中に小高い丘，いわゆる古墳があり，虫採りには良い環境であった。

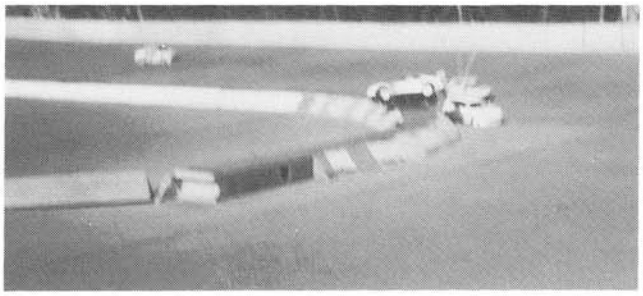
それら，虫採りなどの目的に使われていた場所には，子供たちがつけた名前があった。団地から北北東150メートルほどに古墳があり，それは三本松といった。この名称はどこからきたのか分からない。松は一本も生えていなかったことを記憶しているが，クワガタムシが多く捕れる秘密の場所であった。ある時，探検気分で団地のガキ大将に従って道のないその丘に登った。その頃の掟では珍しいものや虫は先に見つけた者の物であり，掟は一番下っ端の奴でもきっちり守られていた。しかしガキ大将が先頭を行くので，クワガタムシはすべてガキ大将のものになり，羨しく思ったことを覚えている。この頃からかどうかは定かではないが，虫とりは先頭を歩いたもの勝ちで，先頭争いが友達同士でしばしば起こった。しかし私は臆病であったため，いつも友達の後から薮の中に入り，つまらない虫ばかり捕っていた。

古墳より西に約1キロにカブト山がある。ここも古墳であると思われるが，大部分が竹林であり，虫がほとんど採れないのと気味が悪いことで近寄らなかった。本当に不気味な場所で，どこから奥地へ入って行けるのか分からず，探検を試みても困難さを感じさせる場所であり，とうとう目的は果せなかった。

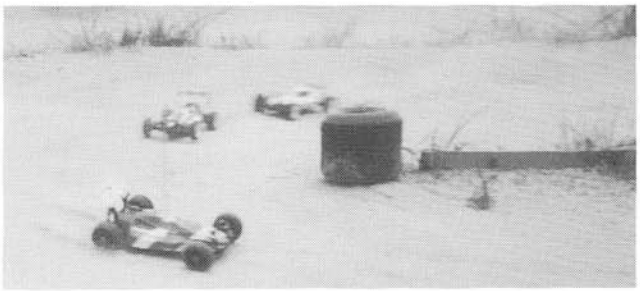
そばにはてんぐ山，この場所も古墳と思われる。カブト山同様竹林がほとんどであったが，人がたびたび入るので道があることと，クヌギが何本か植わっていたことで，虫取りの場所として子供の間では有名な場所であった。この中には池があったが，周辺は不気味さを漂わせていたので近寄る子供は少なかった。当時は，どのような池も子供にとっては怖い場所であり，どこそこの婆さんが入水自殺しただの，十字架がたっている場所だのという噂が流れたものである。十字架に見えたのは，実際には池から農業用水を引くための水門であり，婆さんの噂もデマであった。

てんぐ山のそばを流れる飛鳥川を1キロほど下ると小社神社，多神社がある。これらの神社は古事記に関係する場所であるということだが，子供たちにはそのようなことよりも虫が採れるかどうかの方が大切であった。また，華やかな感じのする多神社よりも，クヌギの大木が何本も存在する朽ちかけた小社神社の方が子供たちにとって魅力的な場所であった。小社神社の，以前は参道であったであろうと思われる道は消え，門柱により入り口を認識していた。これに加え，神主が首をくくったという噂は不気味さを増大させた。ここは住宅から遠いこともあり一人で行くことはなかった。しかし，今まで書いてきた場所の中では虫の数も種類も多く，機会があるたびに通っていた場所であった。

こうして子供の頃は本当にいろいろな噂や迷信を信じ，おびえていたと思う。しかし，噂や迷信を打ち破る子供は仲間うちで尊敬され，目標にされていた。そのようなことに関して私は今も同じであり，幼少の自分には出来なかったことを思い出し，心がけたいと思ってはいるのだが…。



多重クラッシュ



抜かれちゃった

ラジコン同好会創設の記

法学部2年 横田 尚

はじめに，先号の大濠公園の記事についての余談をひとつ。晴れた日の朝や夕方，池の南東側に，無線操縦のヨット，いわゆるラジコンヨットをときどき見かけます。水面からマストの先まで1メートル半，全長1メートルの艇が風を受け進む姿は，まさに爽快のひとことに尽きます。

さて，ラジコンと聞くと，みなさんはどのようなイメージを持っているでしょうか。単なる子供のおもちゃと考えている方は，ぜひとも実物を一度見てください。自動車にはきちんとサスペンションやデフギアが装備されていますし，飛行機のなかには本物のジェットエンジンを積んだものさえあります。数百から数千の部品から成る，これら「動く模型」のほとんどは，組立式となっています。説明書を見ながら，あるいは現物合わせを繰り返して組み上げるのは少々根気のいる作業ですが，それだけに完成したときの喜びも格別です。

私が持っているラジコンは，電動式の車ばかり3台です。金も場所も限られているので，飛行機やヘリコプターにはとても手を出せない実状ですが，それでも月に2～3回，福岡市近郊で開催されるレースに参加しています。

ラジコンカーのレースは，実車レースに勝るとも劣らぬ面白さがあります。状況に応じてタイヤを換えたり，車高を上下させたりといった調整や，他の選手との駆け引き，ペース配分などなど，実車レースと変わらない真剣勝負がそこにはあります。パソコンを用いた電気計時も使用例が増え，気分はさながらF1グランプリです。ちなみに，各種目ごとに全日本選手権，世界選手権が開催されています。

参加者の顔ぶれは，20代から30代の社会人が中心です。夫婦共に，あるいは家族総出で参加というのも珍しくありません。彼らはとことん遊びます。小遣いのほとんどをラジコン代にまわすほどです(私も同様です)。その一方，家族サービスなどもしっかりやっているところを見ると，さすがは社会人，と感心します。また，彼らは初心者に対しても，親身になってアドバイスしたり，修理を手伝ったりします。ラジコンという趣味を共に楽しみ，育てていこうという姿勢は，素晴らしいの一言に尽きます。

こんな面白い世界をもっと多くの人に，とりわけ学友に知ってもらいたいと思った私は，同好会の創設を決断し，実行に移しました。私大や高専の一部にサークルが存在することに加えて，学生と社会人との絶好の交流の機会であることが，創設の根拠となりました。昨年11月から約4ヶ月の準備期間を経て，今年2月末に同好会を正式に結成，同時に宣伝活動も可能な限りやってきた結果，4月末現在会員4名，小さいながらも形は整いつつあります。今後は定例レースへのフル参戦に加えて，ガイダンスやイベント出展などの広報活動，他大学との交流にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

さて，気になる経費についてですが，種別によって差があります。電動式の車の場合，2～3万円で一式揃いますが，レース出場の際に車体の補強や消耗品の補充が必要であることは言うまでもありません。それでも，パチンコや麻雀といったギャンブルに比べると，安価かつ能動的に楽しめるという点で優れています。

私達ラジコン同好会では，会員を随時募集しています。入会無料，経験不問，教職員の方も歓迎します。興味を持たれた方は，ラジコン同好会ガイダンス(6月末開催予定)へおいでください。

愛車とともに集合

ピット作業

〈新任教官自己紹介〉

自　己　紹　介

理学部・物理学
助教授　磯　部　敏　幸

このたび，研究室を六本松地区の化学教室内（2号館205，206号室）に頂き，大変うれしく思っております。所属は理学部物理学科環境物質科学講座，大学院は協力講座として比較社会文化研究科国際社会文化専攻環境システム講座の一員で，実際の研究分野は無機関連化学というややこしく忙しい再スタートを切り，新しい体験を楽しんでいます。

Fresh な new old として，これからの学問のあり方を考え，世界中の科学者へ発信できるような仕事を見つけたいと願っております。難しそうで敬遠気味だった理論的な物理学と今まであまり好きではなかったけど何となく続けてきた化学の知識を融合させ，環境・生命・エネルギー問題を理解するための新しい物質科学が拓かれる時機だと考えております。窓を開ければ運動場が見え，これからという若い九大生の声が聞こえる，移動してきたばかりの何にもない研究室ですが，いつでも歓迎します。1942年生まれ。私立麻生塾工業高校採鉱学科卒。九大理・化学科卒。大学紛争期（ジェット機が九大に墜落した頃）無機化学講座の助手に就任。Milwaukee の Marquette 大学に留学時，ビールとバーボンを多種試飲。性格は地味。スポーツと趣味：運動神経は有る方（体型とは無関係）。頭脳的なもの（麻雀他）もＯＫ。釣り。授業は下手ですので，学生の皆様，しっかり独学して下さい。

私の異文化コミュニケーション

言語文化部・英語
助教授　井　上　奈良彦

4月に福岡教育大から言語文化部に移り，英語と大学院異文化コミュニケーション講座で「言語コミュニケーション論」等を担当しています。専門はと聞かれると困るのですが，大学院では英語教育（修士）と言語学（Ph.D.）に属し，自己流でスピーチコミュニケーションをかじってきました。最近は，ディベートの日本での受け入れられ方や議論の言語学的（談話などのレベル）構造を研究するとともに，ディベート教育の普及にもかかわっています。

新たな仕事・生活は一種の異文化コミュニケーションです。同じ国立大とはいえ会議の進め方や事務手続なども相違点があり，研究者としては興味深いものがあります。九州大学，もしくは六本松地区，言語文化部，英語科，といったある種の共同体を形成し，その中で共有されているコミュニケーションの仕方があるのだと思います。そこに入りこんだ新参者である私はそのルールを身に着けていないためにいろいろ失敗をすると思います。ほかの皆さんは私のコミュニケーションの仕方が奇妙に思えるかもしれません。こちらのルールを教えていただくとともに暖かく見守ってやってください。

残念ながら授業や自分自身の異文化適応に追われて，こちらのルールや異文化摩擦を客観的に記述し分析する余裕はありません。それに「K大学教授会における議論の考察」なんて論文，発表できないでしょう（できるかな？）。

〈新任教官自己紹介〉

言語文化部箱崎分室に赴任して

言語文化部・英語
助手 岡 有子

はじめまして。この春，言語文化部箱崎分室助手として迎えられ，皆さんにお仕えすることになりました。赴任して早1カ月になります。まだ慣れないことも多く大変ですが，マイペースで頑張っています。慌ただしかった新学期の受講手続き期間も終わり，分室内もようやく落ち着いて来て，新緑の中で静かな活気を感じています。

赤レンガの正門をくぐるとすぐ左手に，分室のある古くて大きな建物があります。かつてはさぞハイカラだったことでしょう。この建物の中には，小さな演習室，大きめの講義室をはじめ，ＬＬ教室やＬＬ個別学習室までが備わっています。また，テープのダビングなども行っています。ほとんどがネイティブの先生方によって教えられている授業や，個別学習にと熱心にいそしんでいる学生の皆さんの姿には，頼もしいものを感じています。

私は佐賀県に生まれ育ちました。佐賀大学と九州大学大学院で，英語を専攻し，英詩を味わう楽しさを教えられました。大学4年の時，英国留学の機会が与えられたことでそれがますます増長されたようです。

分室では，皆さんが運用能力のある外国語を身につけるお手伝いをしていければ，と思っています。そして，皆さんに，英文学の，大きく深い世界を楽しんで頂ければ幸いです。小さな箱崎分室ですが，アンスコム飯野先生と事務の森さんと共に，日々努力していきたいと思っています。

自己紹介

言語文化部・中国語
助教授 西山 猛

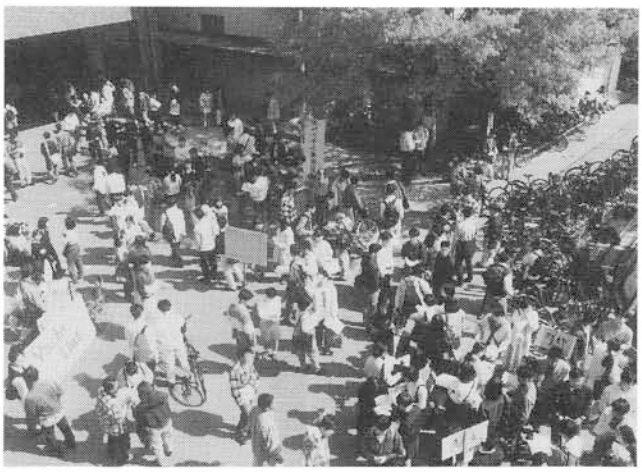
この4月に大分県の県立芸術文化短期大学より赴任してまいりました西山といいます。

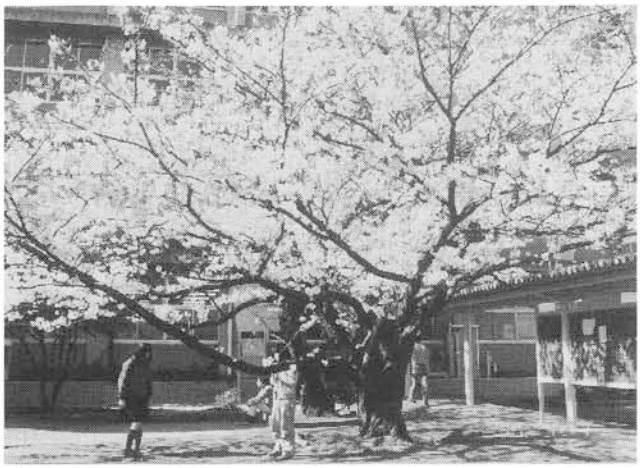
私はもともとこの大学で学んだ人間ですのでこの六本松キャンパスに馴染むのにさほど時間は要しませんでした。ただ以前と比べてカリキュラムが大きく変更されていること，学生の頃講義を受講させていただいた先生方と同じテーブルに坐って会議等に出席していること，等にすこし戸惑いを感じています。

専攻は中国語学です。そのなかでも特に中国古典語の文法体系の記述を目標に研究をしています。

「中国古典語」というと聞き慣れない言葉のように感じられるかもしれませんが，簡単な言葉で言えば所謂「漢文」です。ただ日本で「漢文」というと，返り点等が施され訓読されることを前提とした，一つの体系を有する言語というよりは日本語の或る文体を表す一種の記号群，といったイメージが拭えませんので，敢えて「中国古典語」という名称を用いています。

現在御名前と御顔がまだ一致していない状態ですので御挨拶を失しているかもしれません。今後どうぞよろしく御願い致します。





六本松図書館案内

図書館って，「本ばっかしで，おもしろくなさそうだ」，「入館するのに，いちいち利用証がいるのでめんどくさい」等々，思っておられる学生さんが多々おられることと思います。しかし，大学図書館だからというので，堅い専門書ばかり置いているわけではありません。いろいろな資料・施設があります。

授業期は，平日20時まで，土曜日は10時から16時30分まで開館していますので，是非一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

《2階》

カウンター

図書館資料の貸出・返却を始めとした，資料の各種調査，複写受付等々図書館利用のためのサービス窓口です。

大学院閲覧室・自由閲覧室

授業の合間の自習等やその他，自由に使える学習室です。

ブラウジングルーム

軽読書や休息のための部屋です。

週刊誌等のほかに，諸新聞の最新版を約2ヵ月分置いています。

検索コーナー

学内所蔵資料検索用のパソコン3台をおいています。また，各種CD－ROMでの検索もできます。

《3階》

カバン等の持込みは出来ませんので，2階のロッカールームへ荷物は一時保管してください。

開架閲覧室

図書館資料の閲覧スペースです。一般図書や指定図書，各種辞書・事典，文庫・新書本等を置いています。

新着雑誌室

新着の各種雑誌，各大学寄贈の紀要類を置いています。

AV室

ビデオテープ・CD・カセットテープ視聴のための部屋です。利用の際は，カウンターで利用申込をして下さい。また，2階カウンター横に視聴覚資料を置いています。

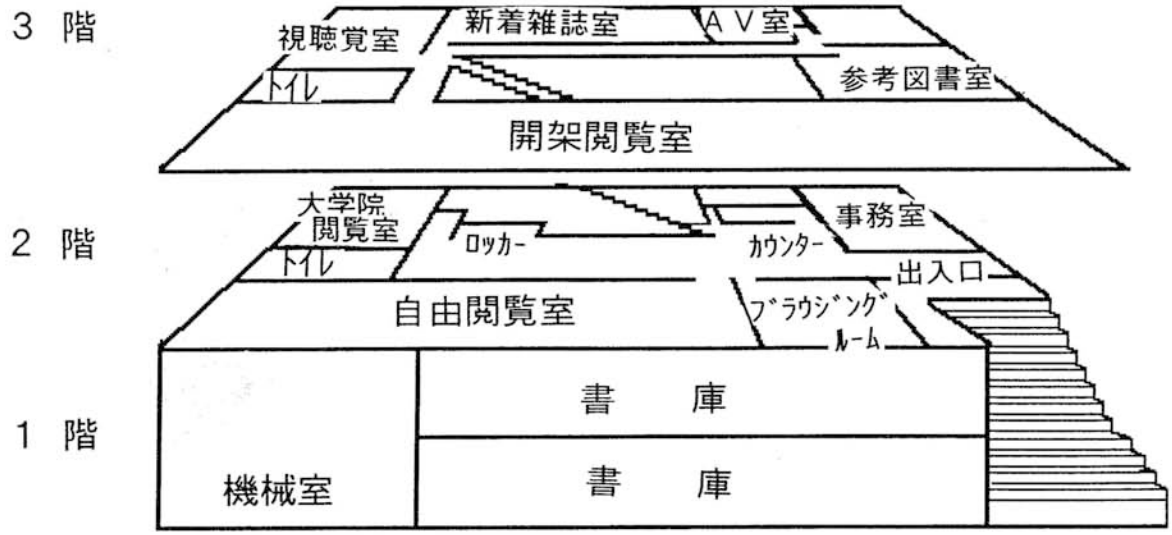
参考図書室

百科事典・人名事典・出版年鑑・各種目録資料等を置いています。

《1階及び中2階》

書庫になっています。1階は雑誌のバックナンバーやロシア語・中国語の資料を置いています。中2階は和・洋の一般図書を各主題別に配架しています。カバン等の持込みは出来ませんので，2階のロッカールームへ荷物は一時保管してください。

その他利用の方法などについて，質問などありましたらカウンターに気軽にお声をかけください。(堀)



ちょっと変わった図書館案内

新入生のみなさん，もう，図書館を利用なさいましたか？図書館に行くには，ちょっと長い階段があります。

出入り口前のエントランスルーム付近，半分は喫煙室になっていますが，広い大きな窓いっぱいに枝を伸ばしたケヤキの梢がすぐ間近にあって，とてもいい雰囲気です。

図書館の周辺のケヤキの木には，よくいろんな小鳥が来ています。ヒヨ，カワラヒワ，シジュウカラ，キジバト，コゲラ（キツツキ），ツグミ，ヤブサメ，珍しいところでは，キクイタダキ……（なんで，知っているのかといえば，実は，図書館の事務室が2階東側に位置しているからなんです。）開け放った窓のすぐそばの梢で，コン，コン，コン，コン，…と派手な音を立てて，幹をつつくコゲラ，ひとしきり，賑やかなおしゃべりをして，次の枝に移っていくカラの仲間たち……この梢に小さなヒワの巣がかかっていたこともあります。

さて，正面の階段とは別に新1号館からの渡り廊下も違った楽しみがあります。西側の大きなサクラの大木がそれ。

このサクラは古い図書館の時からのものです。新館建築の時に邪魔になるので，切り倒されると聞いていたのですが，四方に伸ばしていた枝の一部を切られただけで，なんとか生かされました。大きな木って，普通はその木の根元から見上げるものですが，図書館では，メインフロアが2階になっているため，太い幹の中ほどが目線です。窓辺に立ち大きな木を見下ろしていると，子どもの頃を思い出しませんか？こんな大きな木の中ほどに板切れを集めてきて，ターザンごっこや，隠れ家，秘密基地にして遊んだり…（え？そんな遊びはしたことがないって？ソレハ，チョットカワイソーナコトデシタネ。）

さて，図書館に入ってみましょう。

入館は，ゲートがあって，ちょっと面倒ですが，入ってしまえば，そこは，別世界。まず，2－3階が吹き抜けで天井からの自然採光になっている広くて明るいホールがあります。手狭な六本松地区にあって，これだけ広い空間ってあまりありません。ホールにかかっている「学者如登山」の額は，奥田八二先生の書です。当時，社会科学科の教授でした。ここが，新館としてオープンした時からのもので，利用者の皆さんにエールを送っているようです。私は，この図書館にとてもふさわしい文句だと思っています。（島）

東へ西へ

読むだけでも楽し，読んで動くともっと楽し，の道楽三昧の本，新潮社「とんぼの本」シリーズが，まとめて百数冊，図書館にはいりました。この百冊の組み合わせで楽しめる旅は，百人百様。とんぼの本で歩く自由気ままな旅はいかが？

たとえば……仏像を見て歩く旅。「やさしい仏像の見方」「仏像の見分け方」「国宝」で，基礎知識をチェック。まずは奈良の都，「四季法隆寺」「法隆寺千四百年」で天平文化をさまよった後、「大和路散歩ベスト8」を歩き，「女人高野室生寺」の美しい十一面観音を拝んで，さらに，「巡礼高野山」へ。北上して，関東では「日曜関東古寺めぐり」。ちょっと色気を出して，「関東周辺　山と地酒の旅」と欲張るのもよし。もっと北まで行きたい方には，「円空巡礼」。東北・北海道まで全国各地にちらばる円空仏を探して歩くなんてのはいかがでしょう。

仏像なんてしぶすぎる，とおっしゃるのであれば，日本全国やきものの旅（これもしぶい？「日本やきもの紀行」「唐九郎のやきもの教室」等），絵を見て歩くヨーロッパ（「ユトリロと古きよきパリ」「プロヴァンス歴史と印象派の旅」etc.），浮世絵の世界へ（「春信　美人画と艶本」「歌麿」等）…

うずうずそわそわ，本の旅へのご案内です。

＊ほんとに旅立つ方には，全国各県の「広域道路地図」が入りましたので，どうぞご利用ください。（瀬）

図書館を支える美しき女性職員達（上）

御　招　待　状

ＬＬ準備室　三宮優子（さんのみやゆうこ）

学生諸君，突然授業が休講になった時，あき時間ができた時，いかがお過ごしでしょうか？

図書館での探索，学食での雑談会，大濠公園での日光浴……

まだまだ，とっておきのプランがあります。

アカデミックな九大生にピッタリのコース，“ＬＬ教室個別学習”です。

ＬＬ教室が授業で使用されていない時間帯に一教室を開放し，ブース（カセットテープを用いてヘッドホーンやマイクを使い，リスニング・スピーキング・録音練習ができる装置）を個別に利用することで，みなさんの語学学習に役立てていただこうというシステムです。

外国語を学ぶ際には，授業に加えて個人のニーズに合わせたマイペースの自主学習が必要とされることにお気づきの人，お悩みの人が多いのではないかと思われます。ここでは，授業の予習・復習，カセットテープやマイクを使ってのオーラルの練習，各種語学検定試験の準備など，あなたの企画で進行できます。

マイペースで自主学習できるＬＬ教室は，あなたをヒーローにするだけでなく，語学の達人へと導くかもしれません。自分に似合う学習を見つけるお試し機関として，ＬＬ教室へ足を運んで見ませんか？

ちなみに，４月20日㈭から開始したプログラム利用者は，半月で，のべ40人を記録しました。

みなさん，やる気のある頑張り屋さんは，努力してるんですよ。おちおちしていられませんよ。

ＬＬ個別学習（貸し出し　ＬＬ準備室）
ＬＬ122　火　９：００～１０：００
　　木　１４：３０～１６：３０

また，木（16：10～16：30）ＬＬ121で，ＬＬ準備室保管のキャプション（英語字幕）付きビデオの紹介も行なっています。興味のある方はどうぞ!!

なお，言語文化部箱崎分室には，ＮＨＫ衛星放送の視聴キャプション付きビデオも使えるＬＬ個人ブースが10台あり，毎日（８：30～18：00）自由に利用できます。箱崎日には是非お出かけください。

See you in the LL！！

主な自習教材リスト（オーディオカセット）

英　　語	英検準１級・２級	実用英語教本 '94
		全問題集 '94
	ＴＯＥＦＬ	直前模試
		速読・速聴大特訓
	ＴＯＥＩＣ	対策問題集
		模試600問題集
	国連英検問題集	Ａ，Ｂ，Ｃ級
	ＬＡＢ	EAST WEST 1
	英会話	スーパーレッスン30分
		The English Journal
		ＮＨＫラジオ英会話
	留学事典	
ドイツ語	ドイツ語技能検定	全問題集
中国語	中国語検定試験	問題集
ハングル語	ハングル能力検定試験	問題集
ロシア語	初めて学ぶロシア語・メモ式ロシア語早わかり	
フランス語	仏検合格のための傾向と対策	４・３級
スペイン語	スペイン語「決まり文句600」	

六本松地区教職員異動

（省略）

〈トピックス〉

煙感知器のつぶやき

ある日の４号館でのでき事。学生２人廊下でタバコを吸っていた。煙は天井まで昇り，僕(煙感知器)は火災と確信し，他の階へ延焼しない様に設けられた鋼鉄の扉（防火扉）君へ階段を閉鎖する様に命じた。防火扉君は先ほどまでレリーズと呼ばれるフックで壁に寄りそっていたのに，フックが外れて自重で階段を閉じてしまった。学生はことの重大さに驚き，火がついたタバコを持ったまま逃げ出した。

第一発見者のＩ教官はびっくりして，工営掛に電話したそうである。

建物には，火災が拡大しないように区画が設けてある。４号館の防火扉は竪穴区画と呼び，火災の上下への拡がりを防止する。平面的な拡がりを防ぐ目的で設けられたものを横穴区画と呼び，ホテルなどのドアチェックが付いている鋼板の扉がそうである。

階段近くに物を置くと，それ自身は燃える物でなくとも，防火扉が閉まらず延焼を防止できないこともある。

物を置かないでネ！

僕が煙を検出する原理は，アメニシウム241と呼ばれる放射線源のある金属の，煙に対するイオン電流の差を利用している。今度天井に付いている僕を見つけたら，放射能を出しているからこらしめてやろうなどと思わないでネ。(H)

西福岡マリナタウンイーストコースト全景（11頁参照）

表紙写真募集

編集委員会では，引き続き表紙を皆さんの作品で飾りたいと考えています。写真，絵画，いろいろな趣味をおもちの方，「作品」のカラー写真をご提供ください。また，周りにそのような方がいらっしゃいましたらお知らせください。早速編集委員がお訪ねします。

応募される方，推薦対象の方の範囲

○九州大学生，卒業生，元在学生

○六本松地区の教職員，非常勤講師および関係者

○六本松地区の旧教職員および元関係者

応募，推薦先

radix 編集委員　井上（農学部）　空閑（補佐）
小山（大教セ）　杉山（比文）　園田（健康セ）
竹原（理学部）　田中（言文）　吉田（健康セ）
または企画掛（本館1階奥）

トピックス・エピソード募集

六本松地区にまつわる話，関わる出来事などをお知らせください。編集委員が取材に参ります。また，投稿を歓迎します。応募先などは「表紙写真」と同様です。

あとがき

○　全学共通教育に関わる学生アンケート調査結果について，その概略を本号のためにまとめてもらった。ハードな日程のなか，概括する作業は困難を伴ったと伝え聞いている。詳しい報告書が近いうちに作成されるようである。

○　新しく導入された箱崎（病院）地区日に対する回答は，いわば「理高文低」となっていることがうかがえる。過日，身近な学生数人から少し違ったことを聞いていた。理系では難しくて理解できないと，文系では興味ありというものであった。前者が即応的に，後者は慎重な言いまわしではあったが。

○　女子学生の就職難が報道されている折柄である。卒業生のうち女性は活動の場をどのように築き上げておられるか。「卒業生シリーズ」を設けて，レディファーストにした。できるだけ多くの方々に登場して頂きたいと願っている。

○　学生からの寄稿が3編あった。本号では紙幅の都合でそのうちの2編を掲載することにした。もう1編は次号掲載の予定である。（S）

radix（ラーディクス）　No.5　（九州大学全学共通教育広報）

発行日　平成7年6月26日
発行所　九州大学大学教育研究センター

〒810　福岡市中央区六本松4—2—1
電　話　(092) 771—4161 内線 217（企画掛）